

品種解説：「はぎのかおり」

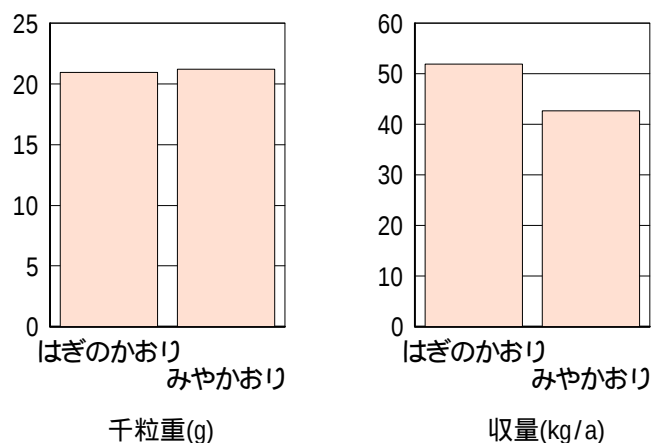
概 要：本品種の障害型耐冷性は「ササニシキ」「みやかおり」よりやや強く“中”である。名前の意味は、“米の美しさと上品な香りを代表的な秋の花である萩に例えたこと”を表現する。

1．来歴の概要

香り米品種の「古 2986」(後の「みやかおり」)を母とし、中生、強稈、多収の「東北 125 号」を父として、1981 年に宮城県古川農業試験場で交配された。1988 年に「東北 144 号」の系統名が付けられ、1991 年に水稻農林 314 号として登録された。

2．形態的特性

- ・ 稈 長：「みやかおり」よりやや長い。
- ・ 穂 長：「みやかおり」よりやや長い。
- ・ 穂 数：「みやかおり」と同程度で、草型は中間型のうるち種である。
- ・ 粒 大：「みやかおり」よりやや小さい。
- ・ 千粒重：「みやかおり」よりやや小さい(下図参照)。



3．生態的特性

- ・ 出穂期・成熟期：「みやかおり」より遅く、「ササニシキ」並みである。育成地では“中生の晩”である。
- ・ 収量性：「ササニシキ」とほぼ同程度で、「みやかおり」に明らかに優る(上図参照)。
- ・ 耐倒伏性：「みやかおり」並みである。
- ・ 葉いもち抵抗性：「みやかおり」よりやや強く、「キヨニシキ」と同程度である。
- ・ 穂いもち抵抗性：「みやかおり」と同程度で、「トヨニシキ」よりわずかに弱い。
- ・ 耐冷性：「ササニシキ」「みやかおり」よりやや強く“中”である。
- ・ 穂発芽性：“中”

特 性	はぎのかおり	みやかおり
耐冷性	中	やや弱
耐倒伏性	やや弱	やや弱
葉いもち抵抗性	やや強	中
穂いもち抵抗性	やや強	やや弱
穂発芽性	中	中

4．品質・食味特性

- ・心白が「みやかおり」より少なく、光沢がやや優る。
- ・玄米の外観品質は「みやかおり」より良好であるが、「ササニシキ」より乳白、腹白、心白がやや多く、光沢が劣る。
- ・精米の白度は「みやかおり」と同程度かやや低い。
- ・香りの強さは「みやかおり」と同程度で、炊飯する場合の混米率は３～５％が適当である。

5．適地等

- ・東北中南部の平坦地に適する。

6．栽培上の注意

- ・多肥栽培では香りが低下する傾向がみられるので、極端な多肥栽培は避ける。
- ・香りの低下を防止するため、機械乾燥する場合には高温による急激な乾燥を避ける。
- ・適期刈り取りに努め、品質の低下を防ぐ。
- ・白葉枯病抵抗性は“弱”なので、常発地では防除を徹底する。

< 参考資料 >

農林水産省農林水産技術会議事務局（平成３年６月）：平成３年農林水産省育成農作物新品種（夏作物・園芸作物）。